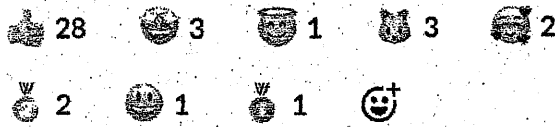


UCL - Japan Youth Challenge 2021

2年 N.O.

この度はプログラムの参加費を援助していただき、ありがとうございました。今回初めて参加をしましたが、プログラム全体においてとてもレベルが高く、新しい経験ができ、自分にとってかけがえのない財産となりました。

プログラムは全日程、8月の3~24日の4週間でした。開催される前には、事前の宿題がありました。Slack というアプリで自己紹介を投稿したり、2050年の未来の学校のアイデアについて自分の考えを紙に書いてアップロードし、提出したりしました。自己紹介の宿題では、参加者全員が金、銀、銅とそれぞれ3人に投票でき、選ばれた人には景品も用意されていたため、皆工夫した自己紹介を作っていて、読むのがとても楽しかったです。

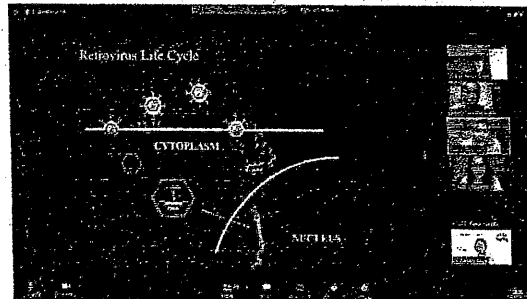


「自己紹介への投票の様子」

<第1週目&2週目>

8月3日に第1回目のZoomミーティングがありました。Zoom参加者は160人以上で、とても多く感じました。実行委員会の方の自己紹介や、UCL(University College London)についての紹介、日本の各学校の紹介動画の視聴(事前に1分以内で撮ったもの)、アイスブレイクなどを行いました。アイスブレイクの内容は、自己紹介と、Zoomのホワイトボード機能を使用した絵しりとりでした。初めてホワイトボード機能を使ったので、どうやって書き込むのか分からず焦りましたが、しりとりが始まってからはとても楽しかったです。

4日から一連の講義が始まりました。1日約3講義あり、講義の大部分は1時間でしたが、30分や90分のものもありました。内容も、日本の文化から最先端医療など多岐にわたっており、いろいろな分野について学ぶことができました。総講義数30の内、最低8講義受ける必要があると伝えられていましたが、時間が合うものにはなるべく参加するよう心がけました。どのような講義があったか、次にいくつか例として連ねておきます。「History of Japanese Calligraphy and Sumi Painting」「Design and Technology for Storytelling」「Cook Along ONIGIRAZU」「Viruses can be our friends as Gene Therapy carrier」「Linguistics through identity crisis」各講義は録画されているため、見逃してしまったものや、同時時間帯に2つ講義が行われていたものなどを視聴することもできます。また、講義が終わったら質疑応答が活発に行われていました。日本の生徒もイギリスの生徒も積極的に質問をしていて、圧倒されました。



「講義の一場面」

<第3週目>

16日にすべての講義が終了し、17日から UCL Grand Challenge Workshop が始まりました。Design a School in 2050 というテーマについて、カリキュラムについて考える班や、行事について考える班など、5つのカテゴリーに分かれて16人程度のグループで話し合います。そして、自分たちのアイデアをまとめて、最終日にプレゼンテーションをするというものです。まずは、割り振られた4人の小グループで、自分のアイデアを話したり、お互いのアイデアに意見を言い合ったりしました。イギリスの先輩方が私の意見を褒めてくれたので、とても嬉しかったです。英語圏の人たちは話すのが速いため聞き取れない部分が多々ありましたが、向こうから質問をしてくれたり、私の意図をくみとってくれたりして、何とか会話をすることができました。けれどイギリスの先輩2人が難しい内容を話していると全然聞き取れなかったため、「ああ、悔しいな」と思いました。やっぱり自分には無理だ、という諦めの気持ちが湧きあがってきて、落ち込んだし、そんな風に考えてしまう自分が嫌だなとも思いました。このプログラムはもちろん楽しかったのですが、期間が長い分、本当に学びや気づきの連続で、時にはつらい場面もありました。今までに参加してきた国際交流プログラムではこんなに落ち込んだことがなかったため、自分の弱さを知ることができたし、もっと高いレベルまで自分を成長させたいと強く思いました。レベルが高いプログラムだったからこそその経験でした。3週目の残りの日は、16人グループでファシリテーターさんの指示に従いながらプレゼンテーションの準備を進め、他のメンバーの考えを取り入れてアイデアを磨いたり、スライドを作ったり、発表原稿をみんなで考えたりしました。ワークショップが始まった当初は英語を聞き取ることや、話すことに不安があったけれど、ファシリテーターさんや、他校の生徒さんが色々と助けてくれたため、楽しく、積極的に活動できました。ファシリテーターさんが日本語で励ましてくれたことが、とても心に残っています。

<第4週目>

いよいよ最終日には、他の4つのカテゴリーのプレゼンテーションを聞きました。面白くて、あっという間に時間が過ぎていきました。どのグループの発表も素晴らしく、皆のきれいな英語に聞き惚れました。

私は以前から半田高校で例年行われてきていたイギリスとの海外交流プログラムに興味がありましたが、今回の体験を通じて、イギリスに行ってみたいと思う気持ちが強くなりました。現地の方と話す中で、イギリス英語の特徴に気づいてとても興味深かったし、Slack上で会話をする中で、面白い言い回しなどを学ぶこともできました。また、日本の生徒さん達もすごく英語を流暢に話していて、英語を学ぶ意欲に火がつけました。このプログラムで得たことは多すぎて書ききれないほどです。国際交流プログラムはやってみないと分からないことばかりだから、挑戦が大切なのだと再認識しました。この夏1番の思い出です。本当に参加できてよかったです！